

1 調査日 平成22年8月9日(月)

2 調査の概要

(1) 野洲市役所(野洲市小篠原)

野洲市ものづくり経営交流センター(野洲市北野)

野洲市は今年4月に東京大学や立命館大学と連携し、ものづくり経営交流センターを開設した。このものづくり経営交流センターは、大企業の退職者らを活用して地場の企業の業務改善を指導し、業績をアップさせて税収増につなげていくという、全国で初めての取り組みである。

この5月には、市職員を含む「ものづくりインストラクター」が市内企業の工場などを視察し、経営改善などについてアドバイスをを行ったところである。

このように地域の強み、特色、潜在力を積極的に活用し、活力ある地域社会を築くための先駆的な取り組みであることから、設立の経緯や現況などについて調査を行い、また、野洲駅北口前にあるセンターを視察した。

委員からは、経営の改善案を社員に考えさせて、その改善案を企業のトップが受けて改善していくという手法はよいことだ。長期的に見ていくと、東大と連携している町だということも含めて、この取り組みによって、将来的に野洲市全体のブランド価値が上がっていくと思う、などの意見が出された。



(2) 滋賀バルブ協同組合(彦根市岡町)

株式会社マツバヤシ(彦根市八坂町)

彦根のバルブ業界は20数社のブランドメーカーとそれを支える60数社からなる関連企業で構成され、業界で働く従業員は1,500名にも上る滋賀県内で最大規模の地場産業である。

彦根で作られるバルブは、上下水道用、産業用、船用向けが主力で、生産高規模



は、過去最少であった平成15年度から順調に回復し、平成20年度では 277億円に上るが、一昨年秋以降の不況による影響が懸念されることから、その現状について調査を行った。

また滋賀バルブ協同組合は、関西大学と滋賀県東北部工業技術センター、協同組合員のメーカーによる産官学連携により、鉛フリー銅合金の開発研究を行い、新材料である「ピワライト」の開発に成功していることから、こうした取り組みについて調査を行った。

さらには、協同組合員の企業である株式会社マツバヤシを視察し、中小企業の現状と課題について調査を行った。

